

2023(令和5)年度 地域連携交流サロン
「学生ボランティアが活躍する大阪・関西万博」をともに考える
開催報告

日時：2024(令和6)年1月29日(月)18:00~20:00

会場：キャンパスポート大阪 ルームB

ゲストスピーカー：

松本 剛志氏

((公社)2025年日本国際博覧会協会会場運営局 来場者サービス部 ボランティア課長)

司会・コーディネーター：

久 隆浩氏

(大学コンソーシアム大阪 地域連携部会推進委員会委員長、近畿大学 総合社会学部 教授)

参加者数：計 18名

<内訳>

大学教職員：10名 大学 13名(うち、会員外 1名を含む)、

オブザーバー：万博協会：4名、(株)JTB コミュニケーションズデザイン(受託事業者)：2名

企画・運営：大学コンソーシアム大阪 地域連携部会

1. 開催趣旨

2025年に開幕される「大阪・関西万博」では、特に次世代を担う若者(学生)の主体的な参画が期待されている。今回のサロンでは、(公社)2025年日本国際博覧会協会のボランティア担当の方をお招きし、「学生ボランティア」をテーマに、若者一人ひとりの万博への主体的な関わりや共創を通じた学びのために何が必要なのか、またどのようなことが期待されるのかについて大学関係者や万博関係者とともに考える機会とする。

2. プログラム概要

(1) 趣旨説明

司会・コーディネーターの久氏より、開会挨拶とともに以下のような趣旨説明があった。

万博の開幕が来年に迫る中、万博協会とすでに連携関係のある大学教職員はよいが、それ以外に関わり方が見えづらい印象を受けていた。1970年万博時は、全体計画に対応できるプロがおらず、大学の研究室が中心となって大学主導で進めた経過があり、自身もその中で学んだ経験がある。

一方、今回の万博はあらゆるノウハウが先行しており、大学が主導する状況にはなくなっており、大学と万博の間で距離があるように思われる。この大阪の地で行われる万博であるため、様々な形で連携できることが望ましく、このような情報交換の場所が作れたらとの思いでこのサロンを企画した。

大学コンソーシアム大阪と万博協会は連携協定を締結し、その目玉の一つとしてボランティアが挙げられていることから、今回は、ボランティアをテーマに大学と万博がどのように関わっていくべきかを考えたい。特に大学としてはボランティアを通じた教育的効果も狙っており、大学側からも大学生の参画にあたっての意見を万博協会に示しながら、今後より良い連携が図れることを期待している。



久氏(司会・コーディネーター)
※写真左

(2) 自己紹介

各参加者より、簡単な自己紹介とサロンの参加理由等が共有された。

(3) 話題提供(ゲストスピーカーより)

ゲストスピーカーの松本氏より、資料をもとに万博ボランティアの概要と大学生にとっての万博ボランティアの魅力について共有された。要旨は以下のとおり。

<万博ボランティアの概要について>

- ・今回の万博は参加型の万博と位置づけ、世界中の人たちが自身の英知を持ち寄り、いのち輝く未来社会について、意見交換をしながら一緒に万博を創り上げることが肝になっている。その一つの参加機会がボランティアである。また SDGs の達成に向けて、ボランティア活動が一つの契機となることを期待している。
- ・活動期間は、会期と同じく 2025 年 4 月 13 日～10 月 13 日の半年間となる（活動時間は携わる活動内容によって異なるが、3～6時間）。活動参加にあたっては事前に研修を実施する。
- ・募集期間は 1 月末～4 月末までの約 3 か月としている。募集人数は全体で 2 万人の規模とする。
- ・募集要件は 2025 年 4 月 1 日時点で、満 18 歳以上、日本語による会話（意思疎通）が可能であること、面談や研修への参加が可能であることとしている。
- ・参加にあたっては、ユニフォーム等の貸与や協会側での保険加入、実費弁償として交通費や食費相当額（2,000 円）の支給を行う予定である。
- ・活動は会場内外での案内、また、まちなかや主要駅・空港での万博情報や交通、観光の案内を想定している（その中で語学を生かすことも可能）。
- ・研修においては、ボランティアの基本的な内容を取り扱うほか、リーダー候補者には別途研修を行う。



松本氏（ゲストスピーカー）

<大学生にとっての万博ボランティアの魅力>

- ・万博は幅広い参加者との関わりによって創られるものであり、そこで得た体験がレガシーとなり、ひいては SDGs の達成に繋がるものとする。
- ・ボランティアは一定の制限はあるものの、自分のやりたいことを形にできる場であり、若い世代にとっては、これまでの経験値に関わらずフラットな関係性の中で、社会人やシニア層とも協力し合いながら活動ができる。
- ・2 万人の規模で多様な経歴や価値観を有する人々と交流し、活動体験を共有できる。
- ・これらの活動によって、「自ら考え行動する力」「多様な人々をつながり協働する力」「新たな価値を創造する力」など、社会人としての基礎的な力を向上させる貴重な体験となる。
- ・万博ボランティアは決して無償の労働力ではない。活動の中で参加を楽しみ、また学びを深めてもらいたい。
- ・今回の万博のコンセプトである「いのち輝く未来社会のデザイン」を踏まえると、次代を担う若者に積極的に参加してもらいたいというのが運営者側の考えである。

(4) 意見交換・情報交換

久氏のコーディネートのもと、話題提供の内容に対する質疑応答や、参加者間での情報交換が行われた。要旨は以下のとおり。

<質問や意見等>

- ・フラッシュモブのように、会場の随所で学生主体に活動ができれば面白いのではないかと考えるが、このように学生が企画できる部分はないのか。決められた担当内だけで行うのではなく、活動者が融合して何か作り上げる形が望ましいのではないかと。(久氏)

→この間、大学関係者等から学生が企画段階から関わることに対する要望が寄せられており、ぜひ組み込みたいと考えている。今後、会場内での様々な取組が明らかになる中で、学生の企画についても検討したい。(万博協会)

- ・主体的に活動できる学生もいれば、指示されて動く学生もおり、「このような形でやってほしい」との呼びかけには後者のような指示待ちの学生しか集まらない。今回のコンセプトに鑑みると前者の学生が望ましく、呼びかけ方に工夫が必要ではないかと。(久氏)



意見交換の様子

- ・募集対象年齢を見ると、万博開幕時に大学生となる高校3年生においては、ボランティア募集がすでに終了しているタイミングとなっており、参加できないことになる。追加募集などの予定はあるか。(大阪教育大学)
- 進学や定年退職等のため、募集段階で先々の予定が定まらない方が一定おられることを想定し、2024年度の後半に追加募集を予定している。(万博協会)

- ・ボランティア保険の内容について教えてほしい。
- 府の社会福祉協議会のボランティア活動保険への加入を前提に確認を進めており、運営主体が保険料を支払う形となる。詳細は大学コンソーシアム大阪を通じて案内したい。(万博協会・JTBコミュニケーションデザイン)

- ・リーダーは希望制なのか。(久氏)
- 面談の中で本人の希望を確認したり、リーダー役として相応しいと思われる方を選出することを想定している。(万博協会)

- ・グループワークを行うと自然にファシリテートできる人が現れる。つまり、そのような人物は活動の中でリーダーを担える素養をもっているのだから、グループワークを通じて見出す方が適任者が見つかるのではないか。(久氏)

- ・問題が起こったときの対応方法をどのような形で共有するかは重要であり、特にリーダーにはどのように活躍してもらうことを期待しているのか。(関西外国語大学)
- フラットな関係での活動と言いつつも、リーダーの存在は重要と認識している。現時点においては、募集広報が最優先事項となっているが、リーダー研修を含む研修内容の具体化についても順次検討を進めたい。(万博協会)

- ・ボランティアに関する単位認定について何か検討されているのか。(大阪大学)
- 大学での教育内容は各大学で検討されるべきものと認識しており、大学側に万博でのボランティア活動の単位認定を要請することは全く考えていない。一方、例えば、大阪公立大学のようにボランティア活動を研究、また支援している大学が万博でのボランティア活動の単位認定を検討いただけるのであれば、大変ありがたい。(万博協会)

- ・本学の活動期間や条件と万博ボランティアの条件が合致しないことを懸念している。例えば交通費の支給などは本学のプログラムでは受取不可としているが、教育課程で参加する学生において、支給等を辞退するケースは想定しているか。(大阪教育大学)
- 支給があることにより、万博のボランティア活動そのものが難しくなるという場合には、対応方法について検討の余地があると思う。(万博協会)

- ・単位が出る・出ない、お金がもらえる・もらえないに関わらず、熱心な学生は参加するのではないか。(久氏)

- ・場合によってボランティア活動を辞退するケースも想定されるが、ペナルティなどはあるのか。(大阪大学)
- やむを得ない理由も想定されるため、ペナルティ等は特に予定していない。(万博協会)

- ・ユニフォームは「貸与」とのことだが、返却する想定か。(大阪大学)
- 会期中は貸与、閉会後に提供する取り扱いとする。(万博協会)

- ・多くの人々が関わるにあたり、どのようにオペレーションするのか。小さなグループを数多く設け、一定数のファシリテーターやリーダーを置く方が自由に活動できるように思うが。(久氏)
- 現在は、募集が最優先事項となっており、オペレーションは次の段階の検討となる。いただいた意見を踏まえ、より良いものとなるよう検討していきたい。(万博協会)

- ・様々な活動を支援するにあたり、一人ひとりの自律が重要と考えている。(久氏)

- ・今回万博協会が検討されている研修プログラムについて、どのような印象をお持ちか。(大阪大学)
- 一人ひとりが対話をしながら自律的に活動することが重要と考えている。決めすぎず、余白をどう作るかが大事だと考えている。また、せつかくの機会なので、人間関係構築のための仕掛けを期待したいところである。(大阪公立大学)
- ・リーダー研修よりも、チームビルディング研修を行うことも一案か。(久氏)
- ・バーチャル万博の中で、ボランティアをシミュレーションしてもらうのも一案か。(大阪大学)
- ・授業の一環で万博と関わることを検討している大学もあると思う。本学も「地域プロジェクト活動」というプログラムでの取り扱いを検討しているものの、難しい部分もある。何か検討が進んでいる大学があれば、参考までにご教示願いたい。(大阪電気通信大学)
- 本学では、単位認定は関係なく、万博に関する連続講座を提供するなど柔軟な対応を行っている。(大阪大学)
- 教育課程を変更してまでの対応は正直難しい。大学コンソーシアム大阪のセンター科目の位置づけで展開する方が希望する学生が受講できるので、大学においても活用の余地が広がるのではないか。(森ノ宮医療大学)
- 当コンソーシアムにおいても、各大学の諸事情等を勘案し、単位互換制度の中で科目提供してはどうかといった検討が始まったところである。(大学コンソーシアム大阪事務局)
- ・このボランティアは平日の日中に動かなければならず、学生も授業期間中のため、プロジェクトで動かすなどの何らかの工夫がなければ対応が難しいのではないか。(久氏)
- ・ボランティア活動は公認欠席(公欠)の取り扱いとならないため取り扱いが難しい。(大阪教育大学)
- ・閉会2週間前は来場者が集中し、会場に近い本学の学生はそもそも通学できるのかといった問題がある。(森ノ宮医療大学)
- ・各大学からの参加者数は何らかの形で把握する仕組みはあるのか。大学としては大学の呼びかけに対し、どのくらいの反応があったかを把握したい。(大阪公立大学)
- 現行のシステムでは把握する術はない。ジャストアイデアではあるが、ボランティア参加が確定した参加者に対し、任意回答のアンケートなどで所属大学等を聞くなどは可能かと思う。(万博協会・JTBコミュニケーションデザイン)

3. 参加者アンケート結果

別紙「参加者アンケート」のとおり。

以上